

(2)「原音楽」としてのわらべうた

わらべうたあそびは誰がつくり出したのでしょうか。それは誰か子ども、子どもたちというほかはありません。子どもたちはあそびの中で、歌い、走り、手をつなぎ、からだを動かして、自らを育ててきました。器用に手の指を動かすあそびはやがて、生活の仕事、労働に、そして歌や踊りの表現を育ててきました。何よりも仲間と遊んだという経験は、“原仲間”として、どこへ移り住もうが、他者と支えあって生きていくことを身につけていくのです。遊ぶためには、その前に、おとなや大きい子から「ああ、遊んでもらった」という経験があることが、とても大事であること、子ども自身から、また保育現場の実践の中から学びました。からだがかかたい、よくころぶ、友だちと遊ばない、遊べない、など、子どもの現状が出される中で、そんな子どもたちは遊んでもらった経験が少ないことを知らされました。そして、遊べない子ども、遊ばない子どもは、本当は一番切実に遊びたいと訴えていることに気づかされました。

略

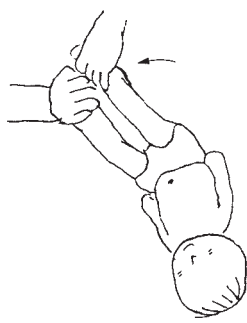
子どもの育ちと、からだ、ことばのリズムが一つになったわらべうたを「原音楽」「原表現」として、その本質をもっと学んで、子どもたちと遊び続けなければと思います。わらべうたそのものもつすじみちによつて、わらべうたあそびは、自分や自分たちをあそびの中で育てていくためにつくり出されたものなのです。

たぶんみなさんも存知の「あがりめ さがりめ」のあそびは、

- 軽く指先でめじりをあげ
- 次にめじりをさげ
- ひとまわりして
- ねこのめでめじりを外側から内側におす（この時、ニヤオーといったりする場合も）というやり方だと思ひます。

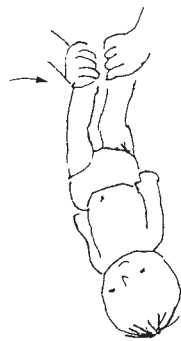
今回は、脚を使った「あし」版「ねこのめ」を試みしました。

- ① あがりめ（両足を上にあげます）（図1）
- ② さがりめ（両足をおろします）（図2）
- ③ ぐるりとまわつて（両足をもつてひとまわりします）（図3）
- ④ ねこのめ（両足をひざのところでやさしくまげます）（図4）



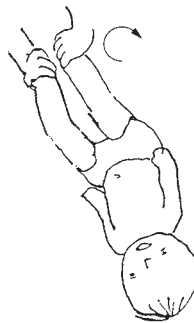
あがりめ

図1



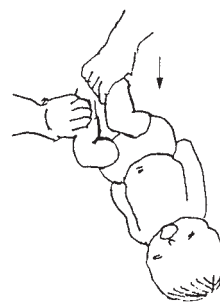
さがりめ

図2



ぐるりとまわつて

図3



ねこのめ

図4